

仙台南部地区特別支援学校新築設計公募型プロポーザル審査講評

【第2段階審査の経過】

第1段階審査を通過した6社によるプレゼンテーション（ヒアリング）の後、審査を行った。まず、各社の技術提案書の表現等が実施要項に沿ったものかどうかの確認を行った。いずれも要項に抵触するものではないことを確認し、審査を進めることを決めた。

各判定委員による評価に入る前に、各社の技術提案書の内容についてあらためて順に確認した後に評価に移った。評価は記名とし、あらかじめ設定された評価項目ごとに5段階の評価点数を記入、全員が記入後、事務局で回収、各項目の配点に応じた配分と集計を行った。第1段階での評価点（満点30点）はそのまま持ち越し、第2段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点70点）とあわせて100点満点での総計点をまとめた。

その結果総計点は、E社が88.9点、C社が88.0点、A社が85.9点、D社が82.3点、F社が67.8点、B社が54.6点となった。5名の委員別では、E社に最高評価点を付けた委員が2名、C社に最高評価点を付けた委員が1名、C社とA社に最高評価点を付けた委員が1名、D社に最高評価点を付けた委員が1名だった。

以上の結果を踏まえて、あらためて各社の提案について確認と議論を行った。議論の結果、E社が第2段階の評価でも最高評価点であったこと、第2段階の評価の2位（A社）に2.5ポイント以上差を付けていたこと、いずれの委員も上位の点数を付けていたことから、審査結果の評価点にもとづいて選定することの妥当性を確認した。最終的に、全員一致でE社を設計候補者とした。またC社については、第2段階の評価点順位は3位であるものの2位とは僅差で、評価点総計で2ポイント以上の差をつけて上回っていることから、次点候補者としての妥当性を確認して、次点として選定することとした。

なお今回のプロポーザル審査では判定委員会で審議の上、2段階（技術提案）に臨む機会を広く与え、提案による評価を重視したいという主旨から、第2段階評価で6社を選定することとして要項を作成している。

提案はいずれも、障がいを持った子どものための特別支援学校のあり方、普通科と産業技術科の併設という県内では例のない新しい取り組みを支える建築空間のあり方、周辺地域の環境や敷地状況などに真摯に向き合った質の高いものだった。最終的には、敷地の利用方針・配置計画、各機能の構成、地域とのつながり方、運営上の動線や機能連携、子どもの安全と新しい教育実践の可能性に関わるポイントが評価の差異につながった。大きな傾向としては、グラウンドの配置（北側か南側か）、建物の構成（一体型か分節・分棟型か）、屋外スペースの考え方（複数に分散か中庭形式か）が各社の提案の違いとして現れた。

最後に、いずれも意欲的な提案をしてくださったことに対して判定委員一同、心から敬意を表し、また感謝申し上げたい。

【選定結果及び講評】

設計候補者：株式会社 佐藤総合計画 東北オフィス（E社）

取組体制や業務の進め方、各課題に対する提案において、総合的に最も優れた案と評価された。

大きな中庭が象徴的な計画案である。中庭の実際の活用は教育や運営とも大きく関わる。その活用においては要検討項目も少なくないが、適切に計画され、また運営されることで安全・安心な屋外空間が確保され、全校一体となった活動の場として有効活用される可能性など、その魅力と可能性が評価された。小中高（普通科）および高等部（産業技術科）の一体的な運用と、一方で求められるそれぞれの特性を活かした教育実践、各部の適切な距離感の中での相互の繋がり醸成などにおいて、中庭が重要な役割を果たすことが期待された。平面計画の提案も的確で、学校と寄宿舎との関係性、厨房と2つの食堂の関係性についても適切な計画が評価された。求められた条件の計画への反映の一方で、コンセプトを明確にした学校づくりと空間計画が評価された。2段階審査（プレゼンテーション・ヒアリング）においても、取り組む意欲と熱意が伝わり、分かりやすいプレゼンテーションと的確な質疑への回答に対しても評価が高かった。

一方、一体的でボリュームが大きい建物となることで、周辺環境・景観へ与える印象は課題としてあげられた。今後の計画の中で、外観デザインやボリューム分節のあり方など、中（中庭）に対する配慮と同時に外（地域）に対する意識もさらに加え、バランスのとれた計画とされることを期待する。

最後に、学校関係者との丁寧な対話を通して、子どもや保護者、また地域のための学校づくりと、今後の特別支援学校のあり方に示唆を与え、モデルとなるような意欲的なハードとソフト両面における取り組みへの期待を添えて設計候補者選定の評とする。

次点：株式会社 INA 新建築研究所 東日本支社（C社）

障がいを持つ児童・生徒への理解が深く、学校生活の具体的なイメージも的確で評価の高い提案だった。課題1に対する提案はE社と同点の最高点を獲得した。土壌汚染対策への言及があるなど、各課題に対して真摯に提案を行っている点においても評価が高かった。

高等部の普通科と産業技術科の関係性を含めて、丁寧に整理された平面計画だったが、寄宿舎内厨房と小中高の食堂との間の距離の長さへの懸念や、プライバシーへの配慮と適切な居住環境の確保の観点からの寄宿舎の配置においては課題もあった。E案と同様、中庭を持つ案ではあったが、活動の場として考えるとやや中途半端な空間になってしまったのが残念である。最終的には総計点においてE社案に及ばず次点となった。

平成31年3月28日

仙台南部地区特別支援学校新築設計
公募型プロポーザル判定委員会
会長 石井 敏